



ぐっと気温が下がり、空気が乾燥してきました。幼稚園でも感染症での出席停止の人が続いています。こまめな水分補給で乾燥対策と感染症対策をしていきましょう。

インフルエンザの流行が続いています

インフルエンザの特徴

潜伏期間…1～3日

主な症状…高熱(38度以上)、頭痛、倦怠感、悪寒、関節痛、筋肉痛、咳、鼻水など

*一般的なかぜと比較すると全身症状が強いとされています。

*インフルエンザに罹患した際は出席停止になります。(期間は右の表のとおりです。)

出席停止期間…発症後5日経過かつ解熱後3日経過するまで(小学生以上は解熱後2日です。)

…解熱

発症したあと5日を経過	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目	発症後 8日目
発症後1日目に解熱した場合			解熱後 1日目	解熱後 2日目	解熱後 3日目	解熱後 4日目	解熱後 5日目	解熱後 6日目	解熱後 7日目
→発症後6日目から登園可能	出席停止	登園可能							
発症後2日目に解熱した場合				解熱後 1日目	解熱後 2日目	解熱後 3日目			
→発症後6日目から登園可能	出席停止	登園可能							
発症後3日目に解熱した場合					解熱後 1日目	解熱後 2日目	解熱後 3日目		
→発症後7日目から登園可能	出席停止	登園可能							
発症後4日目に解熱した場合						解熱後 1日目	解熱後 2日目	解熱後 3日目	
→発症後8日目から登園可能	出席停止	登園可能							

インフルエンザにかかったと思われるときは…

抗インフルエンザ薬は発症後48時間以内に使用することで、罹患期間の短縮などの効果があります。ただし、発熱後すぐに受診した場合、検査結果が正しく出ないこともあります。発症後12時間後以降を目安に受診すると良いようです。息苦しい様子があったり、意識がもうろうとしているなどの症状があった場合はすぐに病院受診をしてください。

～家族が感染した時～

感染予防のためには、できるだけ感染者との接触を避けることが必要になりますが、感染経路に沿った対策をすることで効果的な予防に繋がります。インフルエンザは飛沫感染と接触感染によって感染します。

飛沫感染は感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に口から飛ぶ、病原体が含まれた飛沫を、近くにいる人が浴びて吸い込むことによって感染します。マスクの着用などで、咳やくしゃみを人に向けて発しないことが予防に繋がります。

接触感染は直接感染した人に触れる(握手・だっこなど)ことや、ドアノブなど汚染された物に触れた後、病原体が付いた手で口・鼻・眼を触ることで感染します。そのため、タオルの共用を避けること、ドアノブや手すりなどの消毒、こまめな手洗いなどが予防に繋がります。

冷え対策～脱衣についても意識して～

体が冷えたことが原因で体が不調になることがあります。よく見られるのは腹痛や下痢などです。その対策としては、体を温かくしたり、体温を測るなどがあります。それに加えて、暖房の効いた室内では、脱衣することも意識する必要があります。

出かけた先で電車に乗ったり、暖房の効いた屋内に入った際、コートなど上着を着たままだと、こどもは汗をかいてしまいます。そのまま再び室外に出てしまうと、かいた汗によってかえって体が冷えてしまう恐れがあります。適切に脱ぐことも意識しながら、体温調節をしてみてください。



不審者対応訓練を行いました。

11月21日(金)に不審者対応訓練を行いました。幼稚園に不審者が入ってきたことを想定して訓練を行いました。訓練の後は、1組は防犯に関する紙芝居を、2、3組は埼玉県警察本部の防犯指導班「ひまわり」から2名の方が来てくださいり、出かけた際、自分のいのちを守る約束についての人形劇を見ました。警察より防犯に関する資料をいただいたので、参考にご覧ください。(次のページ)

